

平成28年12月12日

第17回東京トーク会資料

古代・東アジアの動乱と大磯

NPO法人 大磯ガイドボランティア協会
斎藤直人

目次

(概要)

1. 大磯と東アジア
 - 1) 大磯の祭り
 - 2) 高麗の文化
 - 3) 大磯と渡来人
 - 4) 古代の高麗周辺
 - 5) その他の渡来人
 - 6) 高麗に残る祭り
2. 東アジアの動乱
 - 1) 倭国の成立
 - 2) 東アジアと倭国の外交
3. 白村江への道
 - 1) 倭の五王による中国王朝への朝貢
 - 2) 倭の五王と天皇系図との対比
 - 3) 武（雄略天皇）の戦略
 - 4) 百済の復興と倭国

- 5) 伽羅諸国を巡る紛争
- 6) 三国抗争時代
- 7) 中国統一王朝（隋、唐）の誕生と東アジア
- 8) 白村江の戦い（663）

4. 白村江以後

- 1) 白村江以後の朝鮮
- 2) 唐・新羅軍の侵攻への対応
- 3) 亡命百済人他の貢献
- 4) 渡来人が相模・大磯に与えた影響
- 5) 中央官制の整備

5. 白村江がもたらしたものの（結び）

- 1) 白村江は何が問題であったのか
- 2) 白村江以後の日本
- 3) 今後の日本外交の行方

（参考文献）

（補遺）

(概要)

●大磯には“高麗山”をめぐる古代のロマンを秘めた伝説がある

⇒ A D 7 世紀、戦乱の朝鮮半島から亡命してきた集団が大磯から上陸したという伝説がある。

⇒ 高来神社の夏祭り“御船祭り”の木遣・祝い唄で唄われる

⇒ 高来神社の祭神は神功皇后と応神天皇

●この伝説の背景にある東アジアの動乱とは？

⇒ 中国、朝鮮 3 国（高句麗、新羅、百済）と倭国の争乱

⇒ 白村江の戦い

●敗戦で、どのような課題を負ったのか

1. 大磯と東アジア

1) 大磯の祭り

①国府祭（こうのまち）

神奈川県重要無形文化財（昭和40年指定）

六所神社

②左義長

国指定重要無形民俗文化財（平成9年指定）

下町の道祖神祭り

③御船祭

大磯町指定無形民俗文化財

⇒高来神社の夏の例大祭

2) 高麗の文化

①高麗山 ⇒神奈備山として崇敬

神仏習合の山

②高来神社（旧高麗権現社・旧高麗寺）



境内見取図



参考絵図

- 一、東海道分間延絵図、相州陶綾郡高麗寺村より（寛政年間）
- 二、高麗寺領山林畑惣絵図より（天保三年）
- 三、新編相模国風土記稿、高麗寺境内図より（天保十三年）

前山 茂 字す

猫塚
鞍掛塚

大磯宿
一里塚

竹三味線石橋
竹七班坂

竹四留石橋
下馬標

前田

高麗寺村

一の鳥居

青木宮

寺領傍示杭

御朱印地

高麗寺地頭所

僧坊

僧坊

僧坊

坊地

坊地

僧坊

墓地

★観音堂（現高来神社）

★平嘉久社

★二の鳥居

★神輿殿

★庚申龍神

神樂殿

★道祖神

★稻荷社

★地藏堂

仁王門

現在地

坊地

僧坊

坊地

僧坊

僧坊

坊地

僧坊

僧坊

坊地

僧坊

坊地

僧坊

坊地

僧坊

坊地

僧坊

坊地

僧坊

坊地

僧坊

滝沢

毘沙門塔

錦宮 御供所

麗権現社 鐘楼

白山社

僧坊

天神

開

開

開

開



四町宵宮神輿渡御
平成二十八年七月十六日(土)
18時30分 JR大磯駅前
南本町、北本町、神明町、茶屋町の神輿がJR大磯駅前に集合、
勇壮な神輿の競演がみられます。

神輿巡行・御船祭
平成二十八年七月十七日(日)
6時～21時 神輿巡行
高来神社から照ヶ浜まで、13基の神輿が町内を練り
照ヶ崎斎場へ集合します。
7時～15時 御船
隔年ごとに水引幕や織のぼり、くくりざるで飾りたてた
2艘の船形の山車が北下町と南下町の間を曳かれます。
12時～13時 式典
照ヶ崎斎場(大磯港県営駐車場)



大磯町指定無形民俗文化財

高来神社夏季例大祭 御船祭



お問合せ：(公社)大磯町観光協会 TEL.0463-61-3300 <http://www.oiso-kankou.or.jp/>

③高麗山に祀られている神々

●高句麗の神霊・神皇産霊神（高麗権現） 武内宿禰奏請

●神功皇后・応神天皇合祀

●平嘉久社（大山祇神、高良（たたら）明神、天神社）

●高麗寺建立

⇒僧・行基（668-749）、千手観音伝説

●慈覚大師円仁（794-864）

⇒三社権現を祀る（高麗権現、白山社、毘沙門堂）

●高麗権現は箱根神社、伊豆山神社に遷祀。

（箱根山縁起・走湯山縁起・高麗寺建立記）

⇒源頼朝の崇敬を受けた

④鎌倉時代

⇒最盛期 鎌倉幕府の保護 24僧坊

⑤江戸時代



大磯高麗山

(大磯高麗山)

⇒寺領 100石のご朱印地

東照大権現を勧請 東叡山寛永寺の末寺

⑥明治維新

⇒神仏分離令、廃仏毀釈

高麗寺廃寺 寺仏は慶覚院（末寺）へ

高麗権現社⇒高麗神社⇒高来神社

3) 大磯と渡来人

①大陸からの渡来人の歴史

縄文末期（BC3）～奈良時代（AD8）5～6百万人？

②4世紀以降の東アジアの情勢

●百濟、新羅、高句麗と倭の争乱（好太王・広開土王の碑）

はくすきのえ

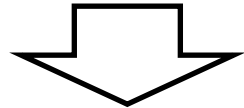
●白村江の戦い（663）唐・新羅連合軍に敗れる

●高句麗の滅亡（668）、百済の滅亡（663）

③渡来人の亡命⇒関東への移住（東国の開発）

東国へ百済人2千余人（666、日本書紀）

武蔵国へ高麗人 1799人（716、続日本紀）



関東への定住

粕江（高麗江）、砧、調布、秦野（秦氏）、高座郡（高倉郡）

新座（新倉＝新羅）、志木（志楽木＝新羅）

④高句麗使者（王族） 玄武若光 日本に朝貢（666）

⇒高句麗滅亡（668）で倭に亡命

王族・若光の一団が大磯に船で上陸したという伝説がある



高来神社・夏季例大祭の祝い唄・木遣「権現丸」

高句麗人大磯高麗へ
渡来の圖



『大磯高麗と渡来人の足跡』

元大磯高校教諭 坂本行弘

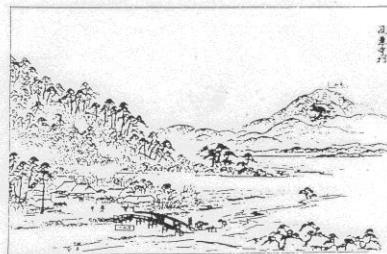
【1】高来（高麗）神社夏祭りの祝い歌

抑權現丸の由來を悉く尋れば應神天皇の十六代の御時より俄に海上騒しく浦の者共恠しみて遙の沖を見てあればとふせんいそぎやつのほをあげ大磯の方へ棹をとり走り寄るよと見るうちに程なく汀に船は着浦の漁船こきよせて彼船の中よりも翁一人立出て楢に登り聲をあげ汝等夫にて能聞よ我は日本の者に非ず諸越の高麗國の守護なるがぢやけんな國を逃れ來て大日本に志ざし汝等歸依する者なれば大磯浦の守護となり子孫繁昌と守るべしあらありかたやと拜すればやがて漁師の船に乘移り上らせ給ふ御代よりも權現様を載せ奉し船なれば權現丸とは是を云ふなれよよ、ソフリアヤン、セイヤヤン

歌ひ終り祭典を始むるを以て例と爲す採鮭を業とする者前日より齋戒し海中より鮭を取り船中にて之を調理し以て神前に供す亦舊式なり此祭は神功皇后征韓歸帆の儀に象ると云往時は神輿を船に乗せ花水川を下りて海路を照ヶ崎に渡せしが某年大風雨の爲に之を停め爾來乗船を廢せしと云四月十八日の例祭は農具市と稱し菜蔬の種子より鍬鎌等の農具を遠近の農民道路に陳列して之を賣買し是より農業に従事するを舊慣とす。



98 同 高麗寺村其二



95 相中留恩記畧 高麗寺村

⑤箱根権現絵巻

箱根権現と伊豆山権現の由来。

はらな
波羅奈国の継子いじめの話で、共に神仏信仰の厚い日本国の大磯へ上陸したという話。

4) 古代の高麗周辺

① 6世紀頃の花水川河口付近の遺跡

② 唐原（もろこしがはら）の地名（現平塚市とうがはら唐ヶ原）

⇒ 渡来人の上陸地か？

5) その他の渡来人

① 背名福德（高麗福德）

日本に亡命した高句麗王族系渡来人。第19代高句麗王

「広開土王」の後裔。660年の高句麗・平壤城陥落で若光より早く亡命。武蔵国の豪族となる。孫に高倉福信・武蔵守がおり、従三位となつて公卿に列せられる。若光と同族。高座郡（高倉郡）との関係は？

6) 高麗に残る祭り

①春季例大祭（家康の命日・4/17から3日間）

●山神輿、植木市

②夏季例大祭（7月第3土・日曜日） 御船祭り

●祝い歌⇒木遣「権現丸」



2. 東アジアの動乱 (AD4~7C)

1) 倭国の成立

倭国関連資料 漢書を始めとする中国の歴史書 (別紙)
『古事記』『日本書紀』『続日本紀』他

①倭人が初めて東アジア世界に登場 (BC1)

⇒楽浪海中に倭人あり。分かれて百余国となる。歳時を以て来たり献見すといふ。『漢書』

(倭人が楽浪郡を通じ、定期的に中国と関係を持っていた)

②奴国 (福岡市付近) が後漢 (光武帝) への朝貢を行う。(AD57)

⇒「漢委奴国王」の金印を賜与『御漢書』

③倭国王師升 (すいしょう) が後漢に朝貢 (107)。⇒倭国と記載

④倭国大乱 (147~189)

「住（とどまる）るところ 70～80 年、倭国乱れ、相攻伐すること
と歴年」（『三国志』魏志倭人伝）

⑤女王卑弥呼の統治始まる（239）。『魏志倭人伝』

●卑弥呼 魏に遣使。「親魏倭王」の金印紫綬・銅鏡賜う。

●魏王に朝貢。

⑥倭女王（壹与）西晋に遣使（266）。

百余国に分かれていた倭国は、大乱を経て女王・卑弥呼の下に国をまとめ、その後大和政権に引き継がれてきたが、各リーダーは必ず中国の王朝に朝貢を行っている。そのことは、まさに中国王朝とのつながりにより国をまとめてきたことに他ならない。従って中国王朝の混乱により倭国も動揺するのである。

中国の後漢末から三国時代の変動期には、倭国のみならず朝鮮半島も争乱状態に陥っていた。

2) 東アジアと倭国の外交

①266～413 年まで、中国正史に日本関係記事無し。
⇒空白の4世紀。その間は、日本書紀、三国史記による

②百済と倭国の通商始まる（366）

百済と伽耶諸国との関係が始まる

⇒伽耶地域を介して、百済・伽耶・倭の関係が形成。

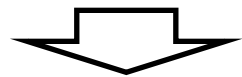
く や かんこく

狗邪韓国（魏志倭人伝にて倭国の北岸と記。鉄の有力な産地で、倭国と密接な関係にあった）

⇒金官国（加羅）＝任那

③百済の戦略

百済が未知の国・倭国に通商を求める目的は何か？



国の成り立ちから、「高句麗」と対峙しており、高句麗の南下にどのように対処するかが百済の国策課題。

⇒対高句麗戦遂行のため、倭国との通交に託した。

④倭国が求めたもの

石上神宮・七支刀（百済が朝貢のときに献上したもの）

⇒倭国が百済との関係を重視した表れ。

（人・物の渡来こそ、倭国が百済に期待したもの）

●先進文物の供与

衣縫工女献上⇒来目衣縫くめのきぬぬい（くめのきぬぬい） 衣縫部

●博士王仁の渡来⇒『千字文』、『論語』を伝える。

⑤広開土王（好太王）の碑

倭国は、日本史上初の海外での大規模な戦争を行った？

●渡海して百済・新羅を臣民とした（396）。

●新羅を救い「倭賊」を撃退する（400）。

●倭が帯方に侵入したので「倭寇」を潰敗し斬殺する。

⑥新羅の動向

●新羅は倭国と国交を結ぶ（402）。

新羅は自国あるいは対象国の王位交代の節目をとらえて、高句麗や倭国に「質」を送り、その圧力を緩和する外交を展開。⇒高句麗に従属していく。

⑦倭五王、中国・南朝に朝貢（413～502）。

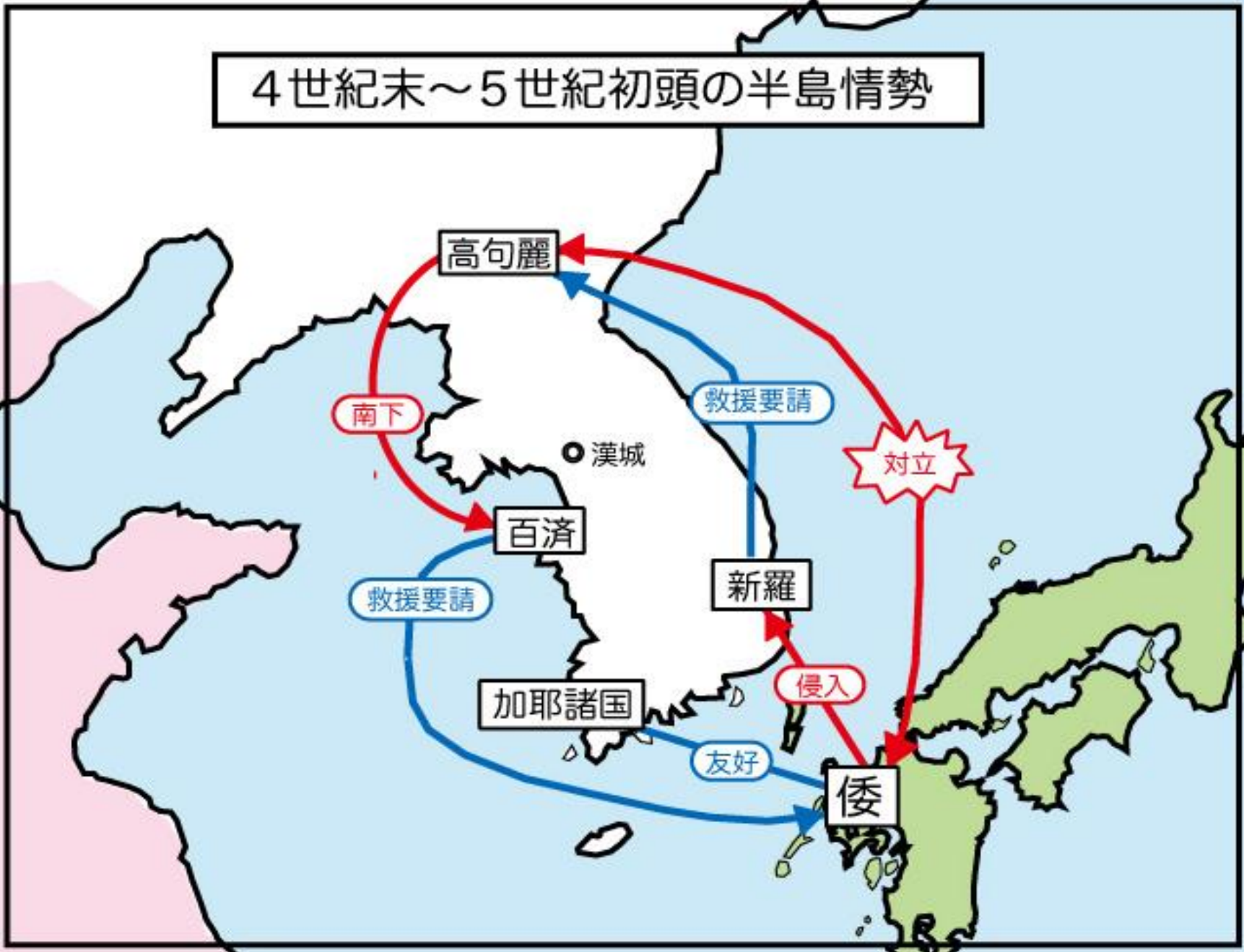
●讃（？）⇒（東晋、宋）、珍・濟（允恭）・興（安康）⇒
（宋）、武（雄略）⇒（宋・齊・梁）

⇒対高句麗対策

⑧倭国外交の課題

高句麗優位のなかでの対高句麗戦の遂行、百濟・伽耶地域との関係維持が大きな課題となった。

4世紀末～5世紀初頭の半島情勢



3. 白村江への道

1) 倭の五王による中国王朝への朝貢

①対高句麗戦への体制整備。⇒宋との外交に活路。

2) 倭の五王と天皇系図との対比。

①武（雄略）、済（允恭）、興（安康）

讚、珍は不明。

②武（ワカタケル）は、「大王」を称した最初の倭王。

3) 武（雄略）の戦略

①有力渡来人（朝鮮半島南部）が王権を支えた。

●東漢氏（ヤマトノアヤ）；東漢直掬（ヤマトノアヤノアタイノツカ）

●西文氏（カワチノフミ）；西文首（カワチノフミノオビト）

●秦氏

②さまざまの技術（飼馬、製鉄、織物、須恵器など）や文字

の知識を有する「史^{ふびと}」として活動。

③半島での軍事行動の準備。

④百済が一時的に滅亡する（475）。

4) 百済の復興と倭国

百済に援助して、高句麗、新羅に対抗

5) 伽耶諸国をめぐる紛争

①新羅（高句麗から独立）⇒伽耶諸国の争奪

②北部伽耶地域は倭国と百済は競合関係にあった。

③南部伽耶地域は5世紀の渡来人の出身地。

⇒この新たな国際情勢に継体大王はどのように対処したか。

④男大迹王（継体）の大王就任（507）。

⇒出自の問題あり。ヤマト王権の本拠に宮を定めるまで
20年かかっている（526）。

⑤527年、新羅による第1次金官国侵攻による百済の要請で6万を渡海させようとしたが、新羅と結んだ九州の豪族筑紫君磐井の反乱（**磐井の乱**）により、渡海延期。
⇒実際は、近江毛野は外交交渉が主で、倭国の使者として渡海。

⑥「**任那4県**」割譲を決定（512）。

●親百済派（大伴大連金村）により、南部伽耶地域への百済侵攻を承認。百済の賂を受けたとの流言。

●百済からの貢物

儒教を講説する五経博士の派遣等、文化的享受を得る。

百済・聖明王、欽明天皇に仏像、経論を献上（538）。

“仏教の公伝”

●この時期、倭系百済官僚が百済宮廷で活躍していた。

にほんしなのあひた
「日本斯那奴阿比多」；科野直姓の倭系官僚

外交問題協議の中心におり、倭国の信頼があった。

⑦伽耶諸国の反発。新羅と組んで百済に対抗。

⑧高句麗から独立した新羅は、南方への領土拡張に意欲。

6) “三国抗争時代”

①百済、新羅の伽耶地区への侵攻

●倭国の調整の失敗（近江毛野）

●金官国を始めとして周辺各国の新羅への編入（532）

●百済が安羅への進駐。

②高句麗の介入

●高句麗と百済の抗争が再燃。

③百済と新羅の戦闘は、倭国の支援を受けたが、百済の聖明王が敗死（554）。

④562年、新羅は、伽耶諸国を併呑、任那は滅亡した。

加羅（伽耶）は、小国で構成される領域。

任那は、領域内の小国・金官国を指す。但し、諸説あり。

倭国の中央、地方の豪族が居住していたが、倭国の出先機関ではない。

⑤倭国の任那復興策と新たな外交方針

●新羅、高句麗との通交

⇒570年、高句麗が初めて来朝。

⇒575年、新羅使が来朝。

●新羅からの「任那調」貢上で、新羅と妥協。

⇒百済の狙いとは異なる。

7) 中国統一王朝（隋、唐）の誕生と東アジア

①589年、隋が中国を統一（南北朝の終焉）

●朝鮮3国は隋に朝貢

⇒新羅は、一貫して隋に臣従。

●倭国の対応

⇒国内問題 物部守屋討滅、蘇我馬子権力闘争

⇒「任那復興」のための筑紫への駐兵（2万余）。

⇒「遣隋使」派遣（小野妹子）

②618年、隋が滅亡、唐が成立。

●隋による高句麗征討の失敗

●朝鮮3国、唐に朝貢。

●630年、倭国が第1回遣唐使派遣。

⇒唐の冊封を拒否するも事なきを得る。

この時期、唐は北方、西方に問題を抱えていた。

③642年、唐の朝鮮半島介入が可能となった。

●倭国では、645年、乙巳の変により、蘇我本宗家滅亡。

中大兄皇子、中臣鎌足による大化の改新。

- 653、654年、遣唐使派遣。894年、菅原道真により廃止されるまで、20回実施。
- 倭国は均衡外交維持。
- 新羅使の唐国服着用事件⇒新羅はすでに唐風化政策による唐への接近。

④唐と朝鮮3国

- 高句麗は唐に敵対。高句麗討伐に乗じて百済が新羅侵攻。
- 新羅は倭国を離れ、唐に臣従する。

⑤660年、唐・新羅連合軍により百済討滅。

“百済の役”

- 百済復興運動⇒倭国支援。
⇒有史以来の百済との関係、百済滅亡による文物輸入ルート途絶。

⇒背後の唐と戦うという現実認識が希薄。

8) 白村江の戦い (663)

①百済内部抗争の影響もあり、白村江への到着が遅れ、待ち構えていた唐・新羅連合軍に挟撃され大敗。

●倭国軍

前軍 (東国兵) かみけぬのきみわくこ 上毛野君稚子、1万余人、170隻

戦いに間に合わず、撤退作戦の殿軍

さらに「東国兵」は臨戦態勢をとったまま駐屯。これが「防人」の起源となった。

中軍 (西国兵) こせのかむさきのおみおさ 巨勢神前臣訳語、2万7千人、軍主力、700隻
壊滅的大敗を受けた

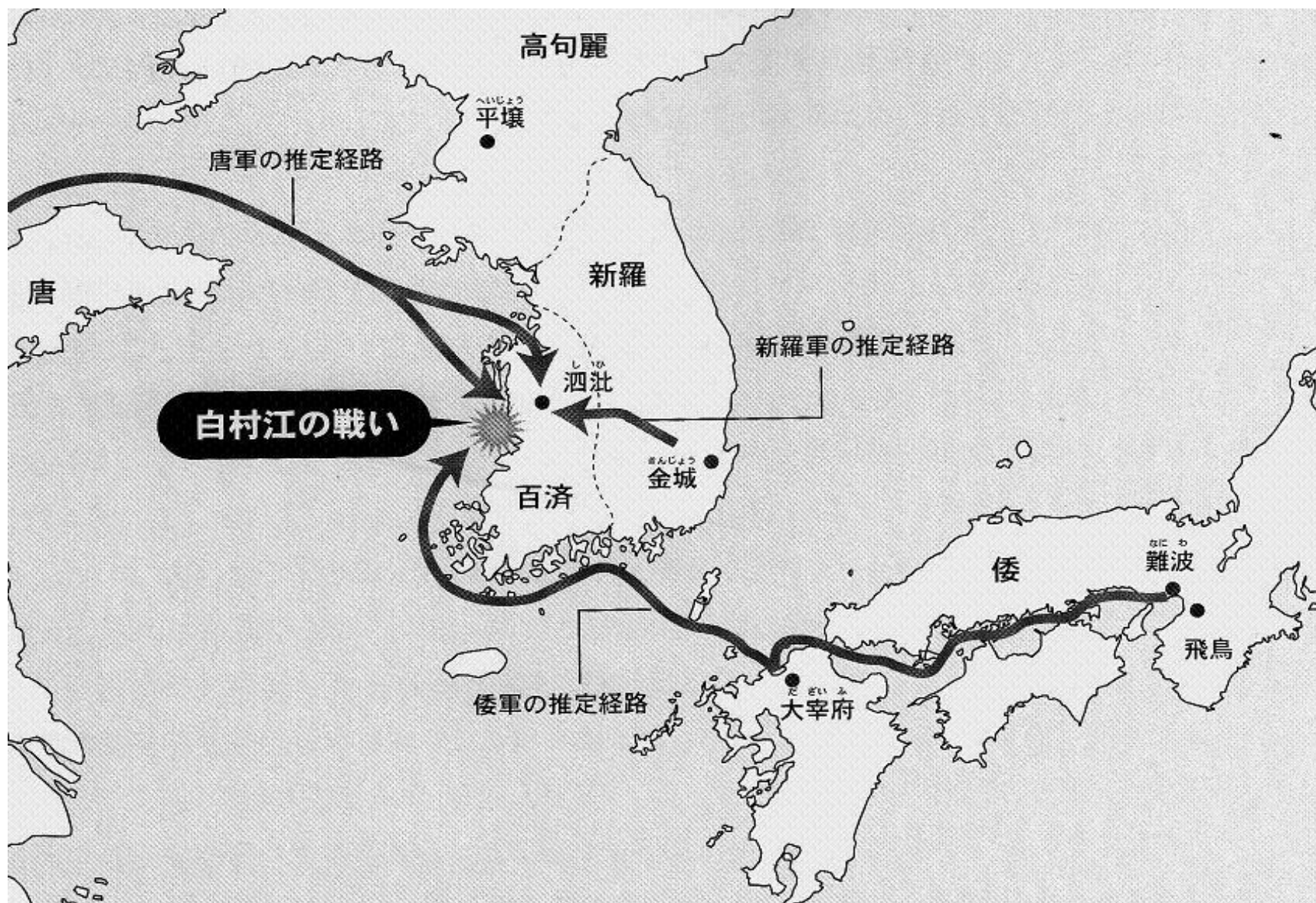
後軍 (北陸水軍) あべのひきたのおみひらふ 阿倍引田臣比羅夫、1万余人

白村江の敗残兵と百済の亡命者を收容して撤退。

●唐・新羅連合軍

唐軍 13万余人、170隻

新羅軍 5万余人





4. 白村江以後

1) 白村江以後の朝鮮

①高句麗の孤立と内紛で滅亡

⇒668年、唐・新羅連合軍の第3次侵攻により、高句麗は滅亡。

②676年、唐を破り朝鮮半島を統一。

2) 唐・新羅軍の侵攻への対応

①戦後新羅が朝鮮半島を統一

⇒幸運にも、当面唐による倭国侵攻は回避された。

②倭国の防衛態勢

●対馬、壱岐、筑紫に防人・烽火を置く。

⇒辺境防衛や唐軍侵攻時の情報伝達システム

●防衛施設・水城を設置。

⇒防衛の要衝大宰府防御のための大堤を築き、水を貯め

た。大水城、小水城

●朝鮮式山城を築く

⇒大野城、基肄城、高安城、讃岐国屋島城、
対馬国金田城

③近江大津宮へ遷都（667）

3) 亡命百済人他の貢献

①多くの百済人が倭国に亡命。

●百済王・豊璋の弟・善光以下百済復興の中心の貴族階級
から一般市民まで1000人が定住。

⇒倭国の律令国家成立に大きな影響。

②倭国の防衛計画は、亡命百済人がはたした大きな役割。

③一般亡命百済人2000人への食料支給、租税免除、土地
の賜与。⇒百済郡を設置（大阪市生野区、天王寺区）。

④百済人による東国開発

- 朝鮮半島から国内開発が課題

 - ⇒渡来人の活用

- 近江国愛智郡（滋賀県秦荘町、愛知川町）秦氏。

 - 大津市、志賀町、蒲生郡（八日市、近江八幡、蒲生町能登川町）

⑤666年（天智5年） 百済人男女2千余人東国移住。

⑥684年（天武13年）百済人僧尼以下23人を武蔵国。

⑦687年（持統元年）高麗人56人を常陸国、新羅人14人を下野国へ移住。高麗の僧侶を含む22人を武蔵国

⑧716年（靈龜2年）駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野七か国の高麗人を武蔵国に移す。

⑨733年（天平5年）埼玉郡の新羅人徳師ら53人に金姓。

⑩758年（天平宝字2年）新羅郡の設置。新羅僧32人、尼

2人、男19人、女21人を武蔵国に移住。

⑪760年（天平宝字4年）新羅人131人を武蔵国移住。

4) 渡来人が相模・大磯に与えた影響

高句麗副使（王族） 玄武若光 日本に朝貢（666）

⇒高句麗滅亡（668）で倭に亡命

王族・若光の一団が大磯に船で上陸したという伝説がある
その後（716）、武蔵国へ移住。

①先進技術（養蚕、綾織、木工、製鉄、牧畜）を伝える

●綾織物産地⇒国郡制により余綾郡となる（701）

●木工技術伝承⇒箱根寄木細工、大山駒

●関東北西部の絹織物、窯業（瓦）、和紙、鉾山開発
（秩父の銅）

●製鉄技術⇒タタラ製鉄跡地（字前田）？

●平嘉久社に高良明神を合祀。

●戦国期⇒大磯の代官・笠原氏が「大磯小判」を作る

②大宝3年（703）朝廷より^{こきし}王姓・従五位下を賜る

（高麗王若光）

③靈龜2年（716）関東の高麗人1799人を以て、武蔵国に遷し高麗郡を設置（続日本紀）。

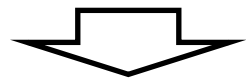
⇒若光はそのリーダーとして高麗郡に移住した。

高麗神社（埼玉県日高市、高麗明神・若光を祀る）、高麗若光の墓

⇒大磯に“釜口古墳（石棺）”があり、若光の墓では？

5) 中央官制の整備

①大化の改新（645）⇒乙巳^{いつし}の変



630年の白村江の敗戦⇒軍事力の整備（軍団制）

667 年、近江大津京に遷都

668 年、天智天皇即位

部民制⇒律令制中央集権国家の始まり

701 年、大宝律令制定により、律令制国家誕生。

②消極外交への転換

- 半島の紛争への不介入

- 唐との通交を避ける

- 唯一頻繁に通交したのが新羅であった。

 - ⇒来る対唐戦争への布石

 - ⇒百済に代わる唐文化を輸入する道を確保。

- 文化の唐風化

③一連の政策に対する豪族、民衆の不満、唐風への不満

⇒内部対立⇒壬申の乱

5. 白村江がもたらしたものの（結び）

1) 白村江は何が問題だったのか

①倭国の国内態勢が中央集権体制になっていなかった。
統一した指揮権者がいなかった。

中央、地方の豪族の集合体⇒部民制

②1 国中心主義的でかつ文化・物質を目的とする外交

一貫して百済を支援してきた。文物、人の獲得の面で百済に期待するところ大。百済もそれを利用。仏教伝来。

任那4県割譲承認の失敗⇒新羅の侵攻を招く。

③倭の政治的立場は不明だが、文化を吸収しようすることが外交の基本になっている。

④中国統一王朝 隋・唐の存在を十分認識していなかった。

2) 白村江以後の日本

- ①敗戦から、国の防衛、唐と同様の律令国家建設の必要性
⇒唐文化の全面受入れ、律令制度の構築。
- ②894年の遣唐使停止により、「唐風文化」⇒「国風文化」
日本中心主義の台頭
⇒唐に対しての意識変化 尊崇⇒優越
⇒外国を異国と認識⇒日本とそれ以外という世界観。
朝鮮諸国への蔑視。新羅の朝貢により優越意識。
⇒「神国思想」
- ③対唐外交においても、国内では**日本中心主義**、
外に対しては**事大主義**という二つの対唐観を使い分けた。
⇒中国との通交は殆ど無くなる。
- ④明治維新での「**脱亜入欧**」思想（中国文化に対する優越感）
⇒対中国観の変革

⑤明治維新以降、日本は本格的な国際外交の訓練を欠いたまま、欧米列強との外交の場に登場せざるを得なかった。

3) 今後の日本外交の行方

①この「白村江の敗戦」の結果は、日本にとって太平洋戦争という大きな代償を払ったのではないか。

②その後、日本の外交は大きく変わったのであろうか。

今の日本を取巻く世界の状況は、益々難しさを増しており、非常に難しい政治情勢を乗り越えることが求められている。

日本は、もはや“白村江の敗戦”を繰返してはならないのである。

今年7月17日（日）真夏の太陽の中、大磯で盛大に執り行われた「御船祭り」を見ながら、ふと考えた次第である。

(参考文献)

- | | | |
|---------------|------|--------|
| 1. 東アジアの動乱と倭国 | 森公章著 | 吉川弘文館 |
| 2. 「白村江」以後 | 森公章著 | 講談社 |
| 3. 逆説の日本史 1 | 井沢元彦 | 小学館 |
| 4. 逆説の日本史 2 | 井沢元彦 | 小学館 |
| 5. 日本書紀上・下 | 井上光貞 | 中央公論社 |
| 6. 神奈川県歴史 | 中丸和伯 | 山川出版社 |
| 7. 日本史総覧 | 橋詰洋司 | 東京法令出版 |
| 8. おおいその歴史 | 大磯町 | |

(補遺)

1. 「三韓征伐」(内容的には新羅征伐)はあったのか？

日本書紀に記載されている神功皇后の征伐は皇紀 860 年に行われたとある。西暦に直すと、紀元 200 年となるが、現実には神功皇后は応神天皇の母であるから、4 世紀末から 5 世紀にかけての人である。内容的には大きく異なるが、その当時下記のよ

うな事実にもとづき脚色されたと考える。

①この時期、日本はしばしば朝鮮半島に出兵
⇒広開土王の碑で確認。

広開土王に打ち破られている。

この事実をもとにしているのではないか。

②何故新羅なのか？

⇒白村江で敗けた相手は新羅であった。

③神功皇后こそ卑弥呼そのものであるとの説。

2. その後の朝鮮半島（新羅統一後）

①9世紀末～10世紀、後三国時代
後高句麗（高麗）、新羅、後百済

②高麗の王建により統一。

⇒王建の遺言 全羅道を差別する内容

③全羅道＝百濟、慶尚道＝新羅

⇒現在までその闘いは続いている。

3. 天智天皇の死の謎と白村江の敗戦後の日本の外交

白村江の敗戦

日本の防衛に百濟人難民の起用（天智天皇＝親百濟派）

唐と新羅の戦い（高句麗滅亡 668 後）

唐が日本との同盟申入れ？（唐の外交、遠交近攻）

⇒671年、郭務悰（唐の將軍）が2000人の軍団で謎の来日（日本書紀）

同年天智天皇の死 同盟阻止派により暗殺された？

新羅⇒唐と日本の同盟阻止

天武天皇（親新羅派）による実行

⇒筑紫大宰つくしのおおみこともち 栗隈王くるくまのおおきみの寝返り

扶桑略記（平安末期 天台宗阿闍梨・皇円）

⇒天智は山科に狩りに行って行方不明。天智の遺体は発見されなかったので、

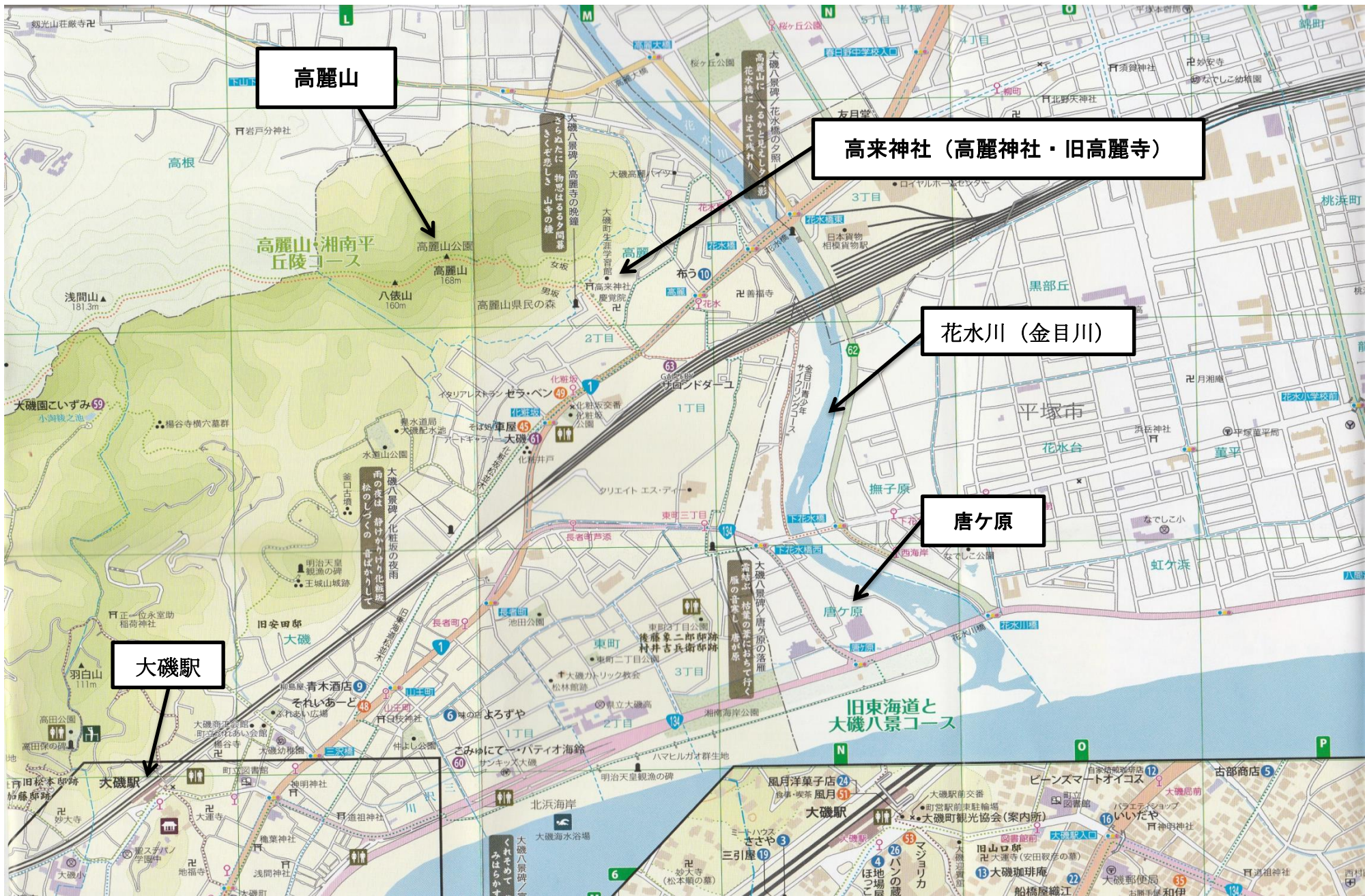
沓が落ちていたところを山稜とした

天武天皇とは何者か ⇒ 忍者（遁甲）であった（日本書紀）

⇒暗殺の実行犯？

宇治市小倉町に天王という地名がある

⇒ここにはかつて「天智天皇」と刻まれた石碑（地蔵院に保存）があった。



高麗山

高来神社 (高麗神社・旧高麗寺)

花水川 (金目川)

唐ヶ原

大磯駅

高麗山・湘南平丘陵コース

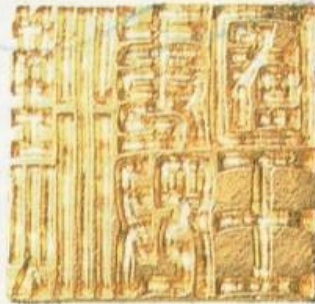
旧東海道と大磯八景コース

2 倭国関連史料一覧

書名	著撰者	記載年代	内 容
漢書	班 固	B.C.202~A.D.8	「地理志」に倭の記事初見
後漢書	范 曄	25~220	「東夷伝」に倭奴国王の印綬受領など
三国志	陳 寿	220~280	『魏志』倭人伝に邪馬台国の記事
晋書	房玄齡	280~420	413年の倭国の遣使
宋書	沈 約	420~479	倭国伝に倭の五王の遣使の記事
南齊書	蕭子顯	479~502	倭王武の遣使の記事
梁書	姚忠廉	502~557	倭の五王の関連記事(『宋書』と共に重要)
隋書	魏 徵	581~618	東夷伝に遣隋使の記事
旧唐書	劉 昫	618~907	遣唐使・冠位十二階の関連記事
高句麗好太王(広開土王)碑 (414年,子の長寿王が建立)			倭の朝鮮出兵記事

3 「漢委奴国王」金印

読み かんわのなのこくおう
かんの い とのこくおう



解説 1784年,現在の福岡市東区志賀島^{しかのしま}で農民の甚兵衛が発見。一辺2.3cm厚さ1cm全高2.2cm重さ109gの純金製。「漢委奴国王」の刻字の読みは上記のように2説ある。後漢の光武帝が与えたものと推定されている。